

1996年3月13日第3種郵便物認可 1997年2月10日発行(第2・4月曜日発行)

News Source of Educational Audiology

会員の誌代は会費に含まれています

聴能情報誌

みみだより

第317号

第3巻

通巻402号

編集・発行人：みみだより会、立入 哉 〒300-11 茨城県稲敷郡阿見町荒川本郷2150-1-1-203 電話：0298-41-7069 FAX：0298-41-5682

報告会開催

補聴援助専用電波請願検討会

補聴援助専用電波の割り当てについては、電気通信技術審議会の命を受けて「補聴援助システム分科会」が報告書をまとめあげ、1月27日に開催される審議会で最終審議され、直ちに郵政大臣に対して答申されました【詳細は2ページ】。新しい補聴援助システム用小電力無線設備の技術的条件が決定されたことに伴い、今夏頃の実用化を目指して関連メーカーが製品設計に入るものと思われます。この機会に、教育現場からの質問や要望を話し合うことも重要であると考え、報告会を開きます。養護・訓練担当、難聴学級担当の先生など多くの関係者をお誘い合わせ下さるようお願い申し上げます。

日時：3月1日(土) 13:00～14:30

会場：筑波大学学校教育部(東京都文京区大塚3-29-1)

地下鉄丸の内線茗荷谷駅下車徒歩4分

..... 求む! 開催情報

今年の学会・研究会日程

- 5月30・31日 日本聴能言語学会学術講演会(広島市)
- 6月14~15日か、28~29日 九州・山口地区難聴教育担当研究会(福岡市)(計画中)
- 7月30~8月1日 全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会全国大会(大分市)
- 8月5~6日/7日 ろう教育科学会/講習会(つくば市:筑波大学)
- 8月6~8日(?) ろう教育の明日を考える集会(福岡市)
- 10月10~12日 日本特殊教育学会(熊本市)
- 10月15~17日 全日本聾教育研究大会(京都市)
- 10月15~17日 日本聴覚医学会(東京都)
- 10月18日 第10回フィッティング・フォーラム(京都市)(計画中)
- 11月20・21日 日本音声言語医学会(神戸市)
- 11月22日 電子情報通信学会 教育工学(ET)「障害児・者、特殊教育」

その他、各地の研究会・研修会などの開催情報をお寄せ願います。

→聾学校教員免許状認定講習会の情報もお寄せ願います。

開催日程が未定でも構いません。原案段階でも情報をお寄せ下さい。

審議会答申概要

《1月27日：電波を利用した補聴援助システムの技術的条件
電気通信技術審議会から、ワイヤレス補聴器の技術的条件を答申》

郵政省は、本日、電気通信技術審議会（会長 西澤 潤一）から、小電力無線設備の技術的条件のうち、補聴器利用者の利便を向上するための「補聴援助システムの技術的条件」について、一部答申を受けました。一部答申の概要等は、次のとおりです。

1. 審議の背景

家庭内や屋外において、離れた場所からでも、周囲の騒音の影響を受けずに聴取することができる電波を利用した補聴援助システム（ワイヤレス補聴器）について需要が高まっています。また、ろう学校、難聴学級の教育の場においても、教師の声を確実に生徒の耳元に届け、かつ、生徒同士のスムーズな会話を図るために補聴援助システムの利用が望まれています。

このため、電気通信技術審議会において、個人や集団で使用する電波を利用した補聴援助システムの技術的条件について審議を行い、取りまとめを行いました。

2. 補聴援助システムの概要

補聴援助システムには、家庭でのテレビ聴取、公共施設での案内等の一方向で使用するものと、ろう学校のように複数の人数が相互に通話する集団用のシステムがあります。

3. 技術的条件の概要

(1) 補聴援助システムの主な特徴

増幅する音声帯域が、200Hzから7kHz程度までの補聴器が多く使用されていますが、軽度難聴の場合などでは、10kHz程度の高音域までのものが望まれています。一方、集団で使用するシステムでは、より多くのチャンネルが必要となります。

このため、補聴器の増幅する音声帯域及び周波数有効利用の観点から、システムの音声伝送帯域を次の3種類に使い分けます。

音声伝送帯域	特徴及び利用形態
10kHz	十分な高音域までの再生が可能。家庭でのテレビ聴取、劇場での演劇鑑賞等で利用。
7kHz	高音域までの再生が可能で、比較的多くのチャンネルが確保可能。ろう学校、公共施設での音声伝送等で利用。
5kHz	多くのチャンネルが確保可能。ろう学校での相互通話等で利用。

(2) 主な技術的条件

音声伝送帯域	10kHz	7kHz	5kHz
周波数帯	70MHz帯		
空中線電力	10mW以下		
変調方式	周波数変調		
周波数の許容偏差	20×10^{-6}		
空中線電力の許容偏差	上限20%、下限50%		
最大周波数偏移	$\pm 30\text{kHz}$	$\pm 8\text{kHz}$	$\pm 5\text{kHz}$
占有周波数帯幅の許容値	80kHz	30kHz	20kHz
チャンネル間隔(イン列-7°)	125kHz (62.5kHz)	50kHz (25kHz)	25kHz (12.5kHz)
隣接チャンネル漏洩電力	60dB以下		

4. 今後の取組

本答申を踏まえ、補聴援助システムを導入するために郵政省令等の関係規定の整備を行うこととしています。

連絡先：電気通信局電波部移動通信課（担当：市原検査官、浅井係長）

TEL：03-3504-4873

生徒募集

東京都
第12期

障害者・カルチャースクール

障害を持つ方のすぐれた才能を育み、文化・芸術活動への参加の場を広げることを目的として、「障害者・カルチャースクール」を開講してから12年を迎えました。来年度も引き続き生徒を募集いたします。

期 間：97年4月～98年3月（隔週日曜日の2時間）

会 場：こどもの城（渋谷区神宮前5-53-1）

対 象：都内在住で身体障害者手帳あるいは愛の手帳をお持ちの方

コース：絵画・造形・マンガ・童画イラスト・書道・日本舞踊

申込み：3月5日までに申込書を提出のこと。

申込書は返信用切手80円を添えて下記に請求すること

〒160 新宿区本塩町1-7 千陽ビル （財）日本チャリティ協会

主 催：東京都

「PiPi とべないホタルは、やさしさや思いやり、勇気を
伝えてくれる。とてもステキなアニメーション映画です。」

3月に2カ所で試写会が行われます。

一度ご覧下さい。そして、次はあなたの地でも！

3月2日（日）10：15～ 会場：筑波技術短期大学 聴覚部 講堂

3月29日（土）13：00～ 会場：戸山サンライズ

試写会情報

PiPi とべないホタル

3月 2日（日）10：15～ 会場：筑波技術短期大学 聴覚部 講堂
入場無料、事前の参加申し込みは不要です。（主催：茨城県難聴児を持つ親の会）

3月29日（土）13：00～ 会場：戸山サンライズ（事前の参加申込が必要）
入場無料、下記書式で事前に参加申し込みをすること
なお、中田新一監督やNHK文字放送担当者との座談会もあります
（主催：（全国）難聴児を持つ親の会、協力：配給委員会）

羽がちぢれていて飛べないホタルPiPi。それは、私たちには補聴器を付けて頑張っている子どもたちにオーバーラップして見えるものでもあります。PiPiの悲しみを分け合おうとする仲間たちのやさしさや思いやり、勇気と希望等があふれたストーリーを一人でも多くの皆様に是非お伝えしたい。そして、この感動を分かち合いたく、試写会の運びになりました。

金沢での試写会の日、ノートテイクする親の子の姿を見つめる中田監督は、「耳の不自由な人のことを忘れていたね」と字幕付きフィルムを作ってくださいました。PiPiの字幕付きフィルムの上映は、これから日本社会が目指しているバリアフリー社会実現への指針でもあります。心配されている地球環境問題、いじめの問題、内容いっぱいの感動の映画です。知人、友人お誘いの上、おいで下さるようお願い申し上げます。

記事訂正

「みみだより310号」22ページ掲載、Harris Communicationaの住所変更

15159 Technology Dr Eden Prairie, MN 55344-7714 U.S.A.

TEL:1-612-906-1180 FAX:1-612-906-1099

案内 桂福団治 手話落語を語る —講演と手話小咄—

1. 日時：2月23日(日) 13:30開場、14:00～
2. 会場：大阪市立中央図書館5階大会議室
地下鉄千日前線 西長堀駅下車7番出口すぐ
3. 定員：300人(当日先着順)

入場無料、手話通訳、保育あり(2歳半～学齢期まで)
保育をご希望の場合は、図書館TEL:06-539-3306までご連絡を。
お問い合わせ先：大阪市立中央図書館利用サービス課(TEL:06-539-3306)

【4代目：桂福団治】

昭和35年、3代目桂春団治に入門。48年、4代目を襲名。
55年、奈良文化会館にて初の手話落語に挑戦。現在、関西演芸協会会長、日本手話落語会会長、上方落語協会理事。

(「みみより情報」大阪市立聾学校聴能研究班刊 No. 331より許可を得て転載)

前号316号5ページ掲載の
文字放送内蔵型テレビがあれば「予約録画」できるビデオデッキでご注意

本誌316号5ページで紹介した東芝のビデオデッキを使用しても「字幕が表示されない文字放送内蔵型テレビがある」との情報が入りました。早速、東芝ビデオプロダクツジャパン(TEL:03-3454-8552)に照会してみました。この結果、「ビデオデッキとテレビとを接続する際に、ピンコードで接続して再生するのではなく、RFによる接続でしか再生できない文字放送内蔵型テレビが存在する」そうです。アンテナからの入力を使用する方法で再生するもので、この際はテレビのチャンネルを1chか2chにして再生することで視聴が可能とのこと。ピンコードではビデオに録画されていても、テレビの方で文字情報を受け付けられない機種があるらしい。ご注意を。

(「みみより情報」大阪市立聾学校聴能研究班刊 No. 330より許可を得て転載)

訂正

316号10ページ掲載のテレビ番組「手話のキャンパス」紹介記事で、副題「アメリカ聾大学の青春」は番組宣伝時の副題であり、実際の放送番組の副題は「アメリカろう社会の今」が正しいものでした。

横浜市、粋な計らい

粗大ゴミ処理手数料免除のお知らせ

平成9年1月から粗大ゴミの収集が有料となりましたが、生活保護を受けている世帯や重度の障害者・寝たきり高齢者などのいる世帯には、手数料を免除する制度があります。

1. 免除対象世帯

(1) 生活保護世帯

(2) 重度の障害者（身体障害者1・2級、知的障害者A1・A2、
身体障害者3級かつ知的障害B1の重複障害者）のいる世帯

(3) その他

2. 年間4個まで

3. 免除の方法

お住まいの地域を担当する環境事業局の収集事務所に粗大みの排出を申し込むとき、免除対象世帯である事を申し出てください。また、「粗大ゴミ収集申込票」も用意してあります。詳しいことは、各区の環境事業局や福祉事務所、または下記にお問い合わせを。問い合わせ先：横浜市環境事業局業務課 FAX：045-662-1225。

（「横浜ウェブ」第46号より許可を得て転載）

新製品発売

ペン入力型携帯情報端末(PIM) ピノキオ

本誌313号4ページにて紹介した新コミュニケーション端末 ピノキオが発売となった。手書き電子手帳にPHS携帯電話とをドッキングさせたもの。

PHSを内蔵しているので、PHSが受信できる場所であれば、手書きした文字や絵を相手のFAXに送信できるほか、ピノキオ同士であれば、手書き文字を双方向でやりとりできる。その他、パソコン通信サービスNIFTYとの接続が可能で、パソコン通信を経由したFAXの送信も可能である。もちろん、PIMとしての個人情報管理として、アドレス帳やスケジュール表の管理も可能。

幅209.6×奥行き88.0×高さ38.5mm、270g。連続待ち受け200時間、連続通話も8時間可能。ALA-P1（本体）79,800円、ALA-AAK1（アクセサリキット）10,000円。

詳しくは、松下電器産業へ。TEL：06-908-1796。



報告会

ガザの今、そして子どもたちの暮らし

パレスチナ子どものキャンペーン／ガザ駐在スタッフ報告会

パレスチナのガザ地区で唯一のろう学校「アトファルナ」を支援しているパレスチナ子どものキャンペーンは、1995年の秋に現地から2人の先生を日本に招いて、全国で講演会を開きました。

あれから1年あまり、パレスチナとイスラエルの選挙、エルサレムのトンネルを巡る衝突、そして一向に改善しない経済状況のなかで、ガザは今どうなっているのでしょうか。子どもたちはどんな毎日を送っているのでしょうか。

パレスチナ子どものキャンペーンのガザ駐在スタッフ・南なおみが、今のガザの様子、子どもたちの暮らし、子どもたちと学校の未来について、東京と大阪で語ります。また、昨年春から活動を始めたガザ南部ハン・ユニスの聴力検査施設の活動についても報告します。参加費は、東京・大阪どちらも700円です。

東京：2月13日（木）19：00～

会場：梅窓院セミナールーム（東京都港区青山2-26-38）

地下鉄銀座線外苑前下車徒歩1分、外苑前交差点前

大阪：2月22日（土）14：00～

会場：大蓮寺（大阪市天王寺区下寺町1-1-27）

地下鉄谷町9丁目下車徒歩5分、松屋町筋パドマ幼稚園となり

手話通訳ご希望の方は、報告会の1週間前までにキャンペーン事務局までご連絡下さい。

お問い合わせ：パレスチナ子どものキャンペーン

〒171 豊島区目白3-4-5 アビタメジロ304号

TEL：03-3953-1393 FAX：03-3953-1394

主催：パレスチナ子どものキャンペーン、共催：アユス＝仏教国際協力ネットワーク

研修会予告

九州・
山口地区

難聴教育担当研究会

九州・山口地区難聴教育担当研究会が計画されつつあります。期日は、6月14～15日か、28～29日を予定しているそうです。会場は福岡市内で模索中。内容としては、補聴関連の講義や実習などを含むものを計画中。事務局によると、新任の先生方にもわかる初心・入門の内容を中心にするとか。詳細が決まり次第、本誌でも紹介しますので、各校の研修担当の先生方、新任研修の一環に組み込まれたら？！。

荒井真理先生のバングラデシュ報告

以前、日本聾話学校で奉職されておられた荒井真理先生が、JOCs（日本キリスト教海外医療協力隊）からバングラデシュに派遣され聴覚障害児に関わる仕事をされておられます。バングラデシュでは、ワールド・コンサーンのヒア・プロジェクトの2つの聾学校で先生方のお手伝いをされておられます（「みみだより284号」既報）。

荒井先生の御活躍については、JOCsの機関誌「みんなで生きる」で読むことができます。今回、この機関誌に報告文が掲載され、JOCsより転載の許諾を得ることができましたので、御紹介します。

出典：「みんなで生きる」1997年1・2月号より許可を得て転載

耳の不自由な 子どもたちの共に

ーバングラデシュでの働きの中でー

荒井真理



私は、96年4月から、ワールド・コンサーン・バングラデシュのヒア・プロジェクトで、聴覚に障害のある人の為の仕事を始めました。93年7月から始まり、三年半が経ったばかりの新しいプロジェクトです。ダッカから北に120kmのマイメンシンと南に120kmのポリシャルの町に聾学校と聴覚検査センターがあります。マイメンシンにはほぼ一直線の道路があるので2時間で行けますが、ポリシャルには夜行船で行くか、一人の時はプロペラ機で30分で(!)行きます。月に2~3回、プロジェクト訪問をしますが、移動だけで緊張して結構疲れるものです。安全にはもちろん気を使いますが、移動中にはこのイスラム教国で外国人女性がどこに何をしに行くんだらう、と思って声を掛けてくる人が沢山います。

学校の生徒はそれぞれ23人と16人います。バングラデシュの学校の新学期は1月から始まりますが、その時は更に5人増えます。先生はそれぞれ4人と3人いて全員女性、内3人が難聴の家族を持っています。生徒が増えるのに伴い1月には教師も一人ずつ増やす予定ですが、直に辞めてしまうケースも何度かあったので人選には慎重になります。

バングラデシュには約230万人の聴覚障害者がいると政府機関のある方は発表しています。聴覚障害そのものが、障害として見えにくいせいだと言われていますが、日本とほ

ほぼ同じ人口を持つこの国でこんなに多くの方がほとんど放っておかれている事は驚きです。実際とても軽い聴覚障害の方も含まれた数字ですから、特別の対応が必要な人はもう少し少ないと思いますが、人口の半分は16歳以下ですからどれだけ学校が不足しているかが解ります。公立・私立を合わせても聾学校は30校に満たないですから、私達の学校ももっと生徒が増えるでしょう。



先生の話聞く子どもたちはみんな真剣

私達の学校の生徒は全員補聴器を付け、聴覚口話法で教育をしています。生徒は、補聴器を通して音や人の声を聞いて段々耳を使えるように成長していきます。本当は一人2個の補聴器を使えると良いのですが、日本円にすると格段に安いものが、一人当たりのGNPが3万円もないバングラではとても高価で、一人2個はなかなか持つことができません。私達の学校にも一個目の補聴器を買うのも大変だったという家の子供が大勢います。今のところ私達の学校では一般的に普通学校へ通うことができるようになった生徒のみが必要に迫られて2個目を買い始めています。一方、高価なわりに補聴器が汚くても平気であるので、初めはあまりの汚さに驚いていましたが、細かい土埃の多い土地柄なので補聴器管理は大きな課題です。

組は、初級組から小学校2年生段階を教える組までで3~4組あります。入学したての初級組は、3~7歳の子が一緒に精神年齢の違いに先生は苦勞して教えています、子ども達は仲良くしています。初級とはいえ一般のバングラデシュの学校はいきなり文字を教えるので、私達の聾学校にもその傾向が強く、図工・音楽・体育(遊戯)やその他の情操教育を通してもっと自由に自分を発見したり、表現できるようになればと思います。それでも授業は面白いでしょう。一つしか補聴器は付けていないのに皆よく気を付けて先生や友達と言う事を聴いているのには感心します。

日本では3歳までに聴覚障害を見つけることが多く、3歳を過ぎてから補聴器を付け始める子はほとんど無くなりました。しかしここではほとんどの人が補聴器を付けていませんし、学校にも満足に通っていませんので、補聴器を付けて学校に通いたいという15歳以上の方が沢山います。私達教師も出来ればみんなに学校で勉強してもらえればと願いますが、予算も教員数も足りないので残念ながら入学は10歳以下の子に限っています。学校で勉強したいという人をお断りするのには、教育者としてとても胸が痛む思いがします。

初級の組以上にはそれぞれ5~10歳の子の組があり、まず日常の出来事をおしゃべりし、その短い会話集を作ります。自分達の話した事が書かれるので、生徒達は何回も繰り返し読み、そのうちに頭の中に文章や綴りが残っていきます。これで言葉に自信がついていきます。算数や社会も少しずつ勉強し始めます。そうかと思うとある組では色や動物の名前をただ言わせていたりもするので、教師の力量によってうまくやっている組とそうでない組の差を縮め、全体の力量を上げていく事が課題です。

ヒアリングセンターには、クリニックや病院の耳鼻科から聴力測定と内耳圧測定を必要

とする一般の患者さんが送られて来ます。マイメシシンにもポリシャルにもこれらの機器を持つ機関は他にはありません（ハイケアという同じ様な活動をしているNGOは、ダツカに優れたスタッフのいるヒアリングセンターを持っています。ヒアプロジェクトも元はハイケアの模倣から始まりました。補聴器購入・修理、耳型作成、研修などでかなりお世話になっています）。センターは、火・水曜日の午後開き、聴力検査士の主任の先生中心に教師が検査に当たります。私もこの曜日に合わせて訪問するようにしています。中には重複障害の方、メニエル症候群の方など難しい患者さんも来るのもっと勉強が必要です。それにしても、患者さんの耳を覗いてみると、耳垢、耳垂れ等、とても鼓膜まで見えない事が多いので、ハイケアのオージオロジスト（オージオロジーの専門家）に耳かきを見せて質問をしたら、これは危ないから使わせられないと言われ、その代わりにどうしたらパングラの人でも耳掃除が出来るかを教えてもらったりしています。

このように仕事はまだまだ先が長いですが、楽しんでおります。何よりも子ども達の成長はどこにいても嬉しいものです。

さて、今回の「みんなで生きる」には丁度私の元職場「日年聾話学校」が紹介されていますので、ついでに私なりに感じている聾教育にかける神様の計らいをお伝えさせていただきたいと思います。日本聾話学校は、お読みの通りキリスト教主義で、しかも今や日本で唯一の私立聾学校になってしまいました。しかし、私立のゆえに成せる教育の実現を日本の中で進める学校として貴重ばかりでなく、日本聾話学校が創立されるに至る前から、既にアジアのために働く橋渡しとして神様は御計画なさっていたと信じます。この誌面ではこれ以上丁寧にお伝えする余裕がありませんが、神様が人知を越えて様々な人、機関を通って働き続けておられると言う点で、JOCSも日本聾話学校も同じ責任を託されているように思います。今後ともヒアプロジェクトをどうぞよろしくお願い致します。

在 主

★JOCSでは会員を募集しています。・・・入会はどこでもいつでもできます。会員の皆様には、機関誌「みんなで生きる」や報告会、講演会などの情報をお届けします。JOCSの活動を会員の皆様と共に広げていきましょう。

入会方法：事務局にご連絡ください。入会申込書をお送りします。

年会費：年額3,000円以上です。全国の郵便局からお振り込みください。

振替口座 00170-1-20920、加入者名：日本キリスト教海外医療協力会

◆募金にご協力お願い申し上げます。

郵便振替口座：00170-3-13986、加入者名：日本キリスト教海外医療協力会 募金部

JOCSについては、インターネット <http://www1.meshnet.or.jp/~jocs-os/>でも紹介されています。また、古切手を集めています。JOCSそして荒井先生を支える気持ちで、ちょっとボランティアしませんか？。集まったら、下記にお送り願います。

- ・切手の周り5mm～1cmぐらい残して封筒から切って下さい
- ・海外の切手は「外国切手」として別に集めて下さい

〒169 新宿区西早稲田2-3-18-33 日本キリスト教会館内 JOCS切手部

TEL：03-3208-2416, FAX：03-3232-6922

重油除去手に伝えます

聾学校生と先生 あす兵庫・竹野へ

高等部以上計40人

大阪市立聾学校(中央区)の高等部と専攻科の生徒約二十人と教師約二十人が二十五日、ロシア船籍タンカーから流出した重油の除去を手伝うため、兵庫県竹野町の海岸へ日帰りでボランティア活動に行く。

同校では十三年前から毎年七月、中学部の生徒が竹野海岸で三泊四日の宿泊訓練を行い、国民休暇村を宿舎に水泳やいそ遊びを楽しんでいる。

今回の重油漂着後、生徒たちから「きれいな海を守りたい」との声相次ぎ、竹野町に問い合わせたところ、「ぜひ来て下さい」との返答があった。参加者を募集すると生徒、教師ともほぼ半数が希望。中学部の生徒も希望は強かったが、寒い中で重労働のため、参加は高等部以上に限ったという。

「宿泊訓練 思い出の海守りたい」

当日は学校からチャーターバスで行き、現場で約三時間半、作業する予定。全員が事前にボランティア活動助保険に加入する。

浜田邦男校長は「現場環境が激しく、心配する声もあったが、生徒の気持ちを大切にしたい。ボランティア活動を体験することが大変、有意義だと思う」と話している。

新刊図書

たんぽぽの道 ー共に歩んだ母と子の手記ー
南村洋子・南村千里共著、(財)聴覚障害者教育福祉協会刊

先日、某誌から新刊図書の紹介記事を書くように依頼された折りに書いたことでもあるが、最近、聴覚障害児を持ったご父母が、何となく聴覚障害を受け容れてしまうことに驚くことが多くなった。社会における福祉の進展の成果かも知れないが、障害宣告の落ち込みをバネに、より深く、この子をわかっていきたいという「深み」が浅くなっているような気がする。この思いは、私が大学にいて、まさに自分の至らぬところであるが、机上でページをめくることに明け暮れ、目の前で、今を生き抜こうとする親子を研究対象としか見れない風潮にも通じるものがある。しかし、現実には、親子といえども、人と人ととの関係の中で、どろどろに子先生のなっ一緒に歩み育つ



成長と発達の過程がある。本書は、著者である南村洋子育ての記録である。この本を読みながら泣き・笑う自分を見つめ直し、改めて育つことの貴重さを認識できた。さらに相手と一人の人として認めながら(こう書くと一見やさしそうに思えるが、本当は非常に難しい)、さらに「生きていこう」という生き様に、今の南村両先生があることに気付くことができる。本文中に、ずいぶんと安川先生のお名前が出てきた。そ逸話の1つひとつが安川先生を目の前に浮かび上がらせる。私の感想ばかりで恐縮だが、とにかくも、1家族の歩んできた姿から学べることは大きい。ぜひ、お求めいただきたい1冊である。1冊1,500円。

ご注文は、トライアングル(TEL&FAX:03-3203-9938)まで。

FAX送信先:03-3203-9939

新刊「たんぽぽの道」を _____冊注文します。

お名前

ご住所 (〒)

連絡先 TEL: FAX: